Symnapse 第3回演奏会



～新・ラヴェル事件～

助成　公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京［スタートアップ助成］
一般財団法人福島育英会
撮影・協賛　株式会社 HiSC
録音・協賛　K.M.Works
協賛　株式会社ドルチェ楽器
株式会社セントラル楽器　アコード出版　Beatnik

ARTS COUNCIL TOKYO

Symnapse ご挨拶

本日は Symnapse 第3回演奏会〜新・ラヴェル事件〜にお越しくださり、誠にありがとうございます。Symnapse（シナプス）は、吹奏楽経験と現代音楽の作曲という共通項を持った姫野七弦・後藤元信・中村陽太・湯地晃太郎の4人のメンバーにより、新たな音楽の可能性の追求とその普及を目指した活動を行う団体です。

これまでに開催した演奏会ではメンバーによる独奏・室内楽のための作曲作品を初演してきましたが、今回の演奏会は、演奏されるすべての作品が編曲作品である点が異なります。新作の初演しか行ってこなかった当会が、どうしてそのような演奏会をいま開催することにしたのか？　そしてその演奏会で、これまで実現し得なかったプログラムを吹奏楽編成で上演するのはなぜなのか？　それには必然とも言える理由があります。

1875年3月7日に生まれたフランスの作曲家モーリス・ラヴェルは、本日生誕150年の節目を迎えます。当会のメンバーは4人ともラヴェルが大好きで、そうと分かればこの日にラヴェルの生誕祭を行わないという選択肢はありませんでした。

とはいえ、ラヴェルの作品は吹奏楽では既に多く演奏されています。ただ、取り上げられてきた作品を並べてみると、ラヴェル作品の多様さに反して管弦楽作品からの編曲が多く（本プログラムに掲載したラヴェル作品の編曲一覧をお読みいただけるとお分かりいただけると思います）、しかもそのほとんどは管弦楽の模倣にとどまっていることに気づきます。確かに吹奏楽界には管弦楽作品からの編曲を多く演奏してきた歴史がありますし、そのことがこの編成のためのレパートリーを拡大させてきたことは間違いありません。しかし、吹奏楽のためのオリジナル作品も多く存在する現在においてまだ管弦楽を模倣する理由は音楽大学等での教育的配慮などの特殊な事例を除いてもはやないでしょうし、なにより管弦楽作品は管弦楽で演奏されてこそ最大の魅力が引き出されるものでしょう。

ただし、「創造的編曲」であれば話は異なります。ラヴェルがM. ムソルグスキーの独奏ピアノ作品《展覧会の絵》を管弦楽編成に編曲したことで作品が豊かな音響を手にしたように、あるいは武満徹がビートルズなどの楽曲をギター独奏に編曲したことで楽器のもつ新たな可能性を引き出しギター界のレパートリー向上に貢献したように、編曲によって新たな魅力を獲得し、そのレパートリーとして根付いた作品は多々あります。決して前例が多くはない吹奏楽への創造的編曲に取り組むのは、上記のような状況である現代にあってとても意義のあることではないでしょうか。

そうして、「これまでに吹奏楽編曲をされていない、独奏あるいは室内楽のための作品であること」、「ラヴェルの多彩な作品群からできる限り異なる特徴をもつ作品を揃えること（そのために異なる年代から選曲すること）」、なにより「吹奏楽に編曲することでこそ新たな魅力を発見できる作品であること」という条件を満たす5作品をプログラミングし、新編曲で皆様にお届けすることにいたしました。

最後になりましたが、本演奏会の開催に際し助成をいただきました公益財団法人アーツカウンシル東京様、演奏会の収録とご協賛の双方でお世話になっております株式会社 HiSC 様、K.M.Works 様、ご協賛をいただきました株式会社ドルチェ楽器様、株式会社セントラル楽器様、アコード出版様、Beatnik 様、指揮のためにフランスから文字通り飛んできてくださったのみならず楽譜にもたくさんのアドバイスをくださった岡村雄之典様、そして今回このような前代未聞の演奏会に快くご協力くださった演奏者の皆様に心より感謝申し上げます。

La ravélophilie est un bonheur !
（ラヴェル好きは幸せ！）

吹奏楽とラヴェル双方の新たな魅力を発見する一夜となりますように！

Symnapse 代表　姫野　七弦

Symnapse 第3回演奏会 ～新・ラヴェル事件～ プログラム

ラ・パラード (11分) …… M. ラヴェル
編曲：姫野七弦

博物誌 (18分) …… M. ラヴェル
編曲：湯地晃太郎

1) くじゃく
2) こおろぎ
3) 白鳥
4) かわせみ
5) ほろほろ鳥

夜のガスパール (25分) …… M. ラヴェル
編曲：湯地晃太郎

1) オンディーヌ
2) 絞首台
3) スカルボ

休憩 (20分)

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ (20分) …… M. ラヴェル
編曲：姫野七弦

1) アレグレット
2) ブルース
3) ペルペトゥウム・モビレ（無窮動）

ドゥルシネア姫に思いを寄せるドン・キホーテ (7分) …… M. ラヴェル
編曲：姫野七弦

1) 空想的な歌
2) 叙事詩風の歌
3) 酒の歌

本演奏会で初演されました楽曲の楽譜を販売しております(フルスコアのみ／フルスコア＆パート譜セット)
こちらのリンクからお買い求めください。
https://note.com/6_chord/n/nc1ff7a090f9f

楽譜閲覧・購入はこちら！→

CENTRAL
MUSICAL INSTRUMENTS

セントラル楽器
木管楽器 金管楽器 打楽器
管楽器アクセサリ 楽譜・CD

管楽器リペアセンター
管楽器修理・調整

CENTRAL Bee
テューバ・ショールーム
金管楽器マウスピース
オーボエ・ファゴット・リード

CAFE BLOOM
リペアセンター提携サービスあり

〒221-0822
神奈川県横浜市神奈川区西神奈川 1-15-2
TEL. 045-324-3111



テレビには映らない世界を、支えている。



株式会社ＨｉＳＣは
テレビ局をはじめとした、映像・音声の世界を
ＩＴシステムでサポートする会社です。
芸術、文化、スポーツの振興、発展に少しでも寄与できるよう
支援活動を行っております。

株式会社ＨｉＳＣ
札幌本社　札幌市中央区北1条東2丁目5-8 創成パークビル 4F
東京システムセンター　東京都渋谷区神山町5-5 ＮＲビル 7F
https://hisc.co.jp

新・ラヴェル事件

ラ・パラード

La Parade



【作曲年】1992–98?
【初演】1902年3月5日、モンテカルロのパレ・デ・ボザール
A. ムニエ、S. マント V. ユゴンにより初演?
J. ドリームというペンネームで発表
楽譜の寄贈:1972年(フランス国立図書館、ムニエの死後)
【出版年】2008年(Salabert 社)
【初録音】1994年(François-Joël Thiollier)

青年ラヴェルの謎多き記録

この作品には不明点が多く残されています。ペンネームで書かれ、出版も21世紀に入ってからですし、楽譜自体もかなり大雑把に書かれている印象を持ちます(出版譜でさえ怪しい点が多く、今回編曲に当たって相当数の修正を加えました)。もしかするとラヴェル自身はこの作品を掘り起こしてほしくはなかったのではないだろうか?……と思うとやや申し訳ない気持ちにもなりますが、それを押してでも本作品を取り上げたのは、なんといっても吹奏楽にあまりに向いている楽想の連続だったからです。

本作品はバレリーナのA. ムニエ(1877–1972)の台本によるバレエと考えられており、舞曲や劇付随的楽想が連なった音楽です。舞曲は歴史的にも音響的にも吹奏楽の得意とするところですし、バレエやオペラなどのダイジェスト・メドレーもまた吹奏楽が長らくレパートリーとしてきた分野であり、いち吹奏楽作品としても十分楽しく聴くことができるのではないでしょうか。

若書きフレッシュ舞曲メドレー

分本集曲全体進通にま現如始まもますと散漫都なってしまいそうなメドレー的な構成の作品をまとめ上げています。

その後「Scène I」と記されたコミカルな場面に転換します(Scène II以降はありません)。ころころとテンポや表情を変え、重々しい部分、レチタティーヴォ風の部分、コラール風の部分……と節操なく続いていきます。その後、おもちゃの行進のようなセクションに続き再度行進曲が現れると、場面はワルツへと転換します。合間に行進曲の断片が何度か挟まると、突然マズルカ(!)が始まります。その後、新たなワルツが始まり、先ほどのワルツが移行部的に再現され、クライマックスが形成されると冒頭の行進曲に回帰し幕を閉じます。

作品全体を通して、フランスの先輩作曲家たちのオマージュをより強く感じる作品です。その一方でどこかパロディ的にも感じられ、そのバランスにラヴェル自身の性格が強く現れているように思います。

編曲によせて

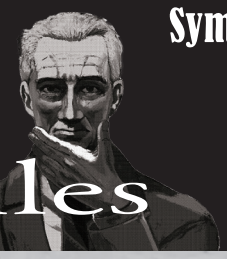
行進曲はいわゆる吹奏楽的な響きを目指し、あえてたくさんの楽器を重ねることで行進曲がもつ実用音楽の側面を強調しています。一方で、ワルツはできる限り歌い込めるような楽器選択を心がけました。

曲を通して、ピアノ独奏でありながらラヴェルが想定していたかもしれない楽器の色彩の広がりを想像しながら編曲しました。

おすすめの曲

〈ボロディン風に〉(《……風に》より/M. ラヴェル):よりラヴェルらしさのあるパスティーシュ(模倣)!

《小組曲》(C. ドビュッシー):ラヴェルほどではないがこちらも若書き。H. ビュッセルによる管弦楽版も今回参考にしています。



Histoires naturelles

【作曲年】1906年
【初演】1907年1月12日、サル・エラール（国民音楽協会コンサート）
歌：ジャーヌ・バトリ、ピアノ：ラヴェル
【出版年】1907年
【献呈】
くじゃく：ジャーヌ・バトリ
こおろぎ：マドレーヌ・ピカール
白鳥：アルフレッド・エドワール夫人（旧姓ゴデブスカ）
かわせみ：エミール・アンジェル
ほろほろ鳥：ロジェ・デュカス

革新的な歌曲、周囲みな困惑

〈道化師の朝の歌〉を含む高名なピアノ組曲《鏡》の翌年に作曲された歌曲で、フランスの詩人J．ルナール（1864–1910）の同名の詩集から5つ詩を選び音楽を付けたものです。ラヴェルはルナールにこの詩を歌曲にしてもよいかと尋ね、ルナールはそれを許可したものの、果たしてこの詩が音楽に適しているのか？と困惑したそうです。

風刺の効いた詩の表現を活かすべく、話し言葉に近い発音や歌いまわしを多用する斬新な歌唱法を取り入れた意欲的な作品となったものの、初演時はあまりの新奇さに聴衆が驚き憤慨し、失敗に終わりました。

ルナールも初演を聴いてさらに困惑し、《博物誌》にいったい何を加えることができたのかと尋ねると、ラヴェルは「私の構想は何かをつけ加えることではありませんでした。それを解釈したのです」と答えました（1907年1月12日付、ルナールの日記より）。

動物たちの精緻な描写

J．ルナールは小説《にんじん》で知られる作家で、簡素で日常的な言葉を使いつつ鋭い観察眼で優れた作品を書きました。《博物誌》もその観察眼がいかんなく発揮された詩集で、哺乳類から昆虫まであらゆる動物の印象が生き生きと綴られています。以下ラヴェルの《博物誌》に採用された5つの詩の概略を記載いたします（訳詩全文は次頁）。

〈くじゃく〉盛装したくじゃくの花婿は、いつまでも来ない花嫁を待っている。

〈こおろぎ〉小心者のこおろぎはせっせと住居を修理する。

〈白鳥〉白鳥は優雅に水の上をすべるように動く。だが、実は首を沈めるたびに虫を食べて、がちょうのように太っている。

〈かわせみ〉釣り人の釣り竿にかわせみが止まった。その釣り人の感動が細やかに描かれる。

〈ほろほろ鳥〉好戦的で騒々しいほろほろ鳥。理由もなく家禽たちを追い回す鳥の動きをコミカルに描写する。

編曲によせて

動物たちの動きをユーモアたっぷりに描写する独唱とその歌詞を忠実に反映した伴奏、それらを独唱をもたない吹奏楽へどのように「翻訳」するか……その点に腐心いたしました。

旋律については、歌詞のニュアンスを反映したフレージングを大切にしたうえで器楽曲として自然に聴かせるための改変を行いました。他のパートは原曲（ピアノ伴奏）より振れ幅の大きい表現を目指し、美しい場面はより美しく、コミカルな場面はよりコミカルに、歌詞がなくとも情景がありありと浮かび上がるような編曲にしました。

またこの編曲は他のものに比べ一回り編成が小さく、27名で演奏します。小さな編成だからこそ生まれる透明感や機動性を意識いたしました。

ラヴェルの知られざる美しさや面白さが詰まった本作、お楽しみいただけましたら幸いです。

おすすめの曲

《鳥は星形の庭に降りる》（武満徹）：静謐な美しさを湛えた名曲。管弦楽作品ですが、実は管楽アンサンブルの美しい響きがふんだんに利用されているのです。

《口絵》（M．ラヴェル／P．ブーレーズ編）：ピアノ5手のための作品をブーレーズが1987年に管弦楽へと編曲したもので、原曲の多層的な音楽をより空間的に拡大した名アレンジです。

訳詞

《博物誌》
ジュール・ルナール

岸田国士（ジュール・ルナール著，岸田国士訳，博物誌，千歳出版，2024，195p.）

孔雀

今日こそ間違いなく結婚式が挙げられるだろう。

実は昨日のはずだった。彼は盛装をして待っていた。花嫁が来さえすればよかった。花嫁は来なかった。しかし、もうほどなく来るだろう。

意気揚々と、インドの王子（プリンス）然たる足どりで、彼はそのあたりを散歩する。新妻への数々の贈物は、ちゃんと自分の身につけて持っている。愛情がその彩色の輝きを増し、帽子の羽飾りは竪琴（たてごと）のように震えている。

花嫁は来ない。

博物誌

彼は屋根の頂に登り、じっと太陽の照らす方を眺める。彼は魔性の叫びを投げかける——

——レオン！　レオン！

こうして花嫁を呼ぶのである。何ものも姿を見せず、誰も返事をしない。庭の鳥たちももう慣れっこになっていて、頭をあげようともしない。そういつまで感心ばかりしてはいられないのだ。彼は中庭に降りて来る。誰を恨むというでもない。それほど自分の美しさを信じている。

結婚式は明日になるだろう。

そこで、残りの時間をどうして過そうかと、ただ、あてもなく踏段の方へ歩いて行く。そして神殿の階段でも登るように、一段一段、正式の足どりで登って行く。

彼は裾長の上衣の裾を引き上げる。その裾は、多くの眼が注がれたまま離れなくなってしまったために、なにさま重くなっている。

彼は、そこでもう一度、式の予行をやってみるのである。

蟋蟀

この時刻になると、歩きくたびれて、黒んぼの虫は散歩から帰って来、自分の屋敷の取散らかされている所を念入りに片付ける。

彼はまず狭い砂の道を綺麗にならす。鋸屑をこしらえて、それを隠れ家の入口のところに撒く。

どうも邪魔になるそこの大きな草の根を鑢で削る。

ひと息つく。

それから、例のちっぽけな懐中時計を出して、ねじを巻く。

すっかり片付いたのか、それとも時計が毀れたのか、彼はまたしばらくじっと休んでいる。

彼は家の中へ入って戸を閉める。

永い間、手のこんだ錠前へ鍵を突っこんでみる。

それから、耳を澄ます——

外には、なんの気配もない。

しかし、彼はまだ安心できないらしい。で、滑車の軋む鎖で、地の底へ降りる。

あとはなんにも聞えない。

静まり返った野原には、ポプラの並木が指のように空に聳えて、じっと月の方を指さしている。

白鳥

彼は泉水の上を、雲から雲へ、白い橇のように滑る。なぜなら、彼は、水の中に生じ、動き、そして消え失せる綿雲だけに食欲を感じるからである。彼が望んでいるのは、その一きれである。そして、いきなり、雪の衣を纏ったその頸を突っ込む。

それから、女の腕が袖口から現われるように、彼は首を引き出す。

なんにも取れない。

彼はじっと見つめている。雲は、愕いて姿を消した。

一度醒めた迷夢は、忽ち甦る。なんとなれば、雲は間もなく姿を現わし、彼方、水面の波紋が消えて行くあたりに、また一つ雲が出て来るからである。

軽い羽蒲団に乗って、静かに白鳥は漕ぎながら、その方に近づく……。

彼は水に映る空しき影を追うて疲れ、雲ひときれを捕える前に、おそらくはやがてこの妄想の犠牲となって、死に果てるであろう。

おい、おい、何を言ってるんだ……。

彼は潜る度ごとに、嘴の先で、養分のある泥の底をほじくり、蚯蚓を一匹銜えて来る。

彼は鷺鳥のように肥るのである。

翡翠

今日の夕方は、魚が一向かからなかった。が、その代り、私は近来稀な興奮を獲物にして帰って来た。

私がじっと釣竿を出していると、一羽の翡翠が来てその上に止った。

これくらい派手な鳥はない。

それは、大きな青い花が長い茎の先に咲いているようだった。竿は重みでしなった。私は、翡翠に樹と間違えられた、それが大いに得意で、息を殺した。怖がって飛んで行ったのでないことは請合いである。一本の枝から別の枝に飛び移るつもりでいたに違いない。

小紋鳥

これは私の家の庭に住む佝僂女である。彼女は自分が佝僂のせいで、よくないことばかり考えている。

雌鶏たちの方では別になんにも言いはしない。ところが、だしぬけに、彼女はとびかかって行って、うるさく追い回す。

それから今度は頭を下げ、からだを前かがみにして、痩せっぽちの脚に全速力を出して走って行くと、一羽の七面鳥が円く羽を拡げているちょうどその真ん中を狙って、堅い嘴で突っかかる。この気どりやが、ふだんから癪に障ってしようないのだ。

そんな風で、頭を青く染め、ちょび髭をぴくぴくさせ、いかにも兵隊好きらしく、彼女は朝から晩まで独りでぷりぷりしている。そうしては理由もなく喧嘩を吹きかけるのだが、多分、しょっちゅうみんなが自分のからだつきや、禿げ上がった頭や、へんに下の方についている尻尾などを笑いものにしているような気がするのだろう。

そして、彼女はひっきりなしに、剣の切っ先のように空気を劈く調子外れの鳴き声をたてている。

時々、彼女は庭を出て、どこかへ行ってしまう。お蔭で、平和な家禽一同をいっときホッとさせる。ところが、彼女はまたやって来る。前よりもいっそう喧しく、騒々しい。そして、無茶苦茶に地べたを転げ回る。

いったい、どうしたのだ？

彼女は胸に一物あって、芝居をやっているのである。

彼女は野原へ行って卵を産んで来たのだ。

私は気が向けば、そいつを捜しに行ってもいい。

彼女は、佝僂のように、埃のなかを転げ回っている。

Symnapse

パーリル



Gaspard de la nuit

【作曲年】1908年
【初演】1909年1月9日、サル・エラール（国民音楽協会コンサート）
ピアノ：リカルド・ビニェス
【出版年】1909年
【献呈】オンディーヌ：ハロルド・バウアー
絞首台：ジャン・マルノール
スカルボ：ルドルフ・ガンツ

幻想的な詩に突き動かされて

本作は、フランスの詩人A．ベルトラン（1807-41）の散文詩集《夜のガスパール～レンブラント・カロ風の幻想》から三篇選び曲を付けたものです。ラヴェルの少年時代、同級生でのちに名ピアニストとなるR．ビニェスからこの詩を紹介され、そのグロテスクで幻想的な詩に深く心を動かされたことが作曲のきっかけとなりました。

技術的に難易度の高い作品として知られていますが、ラヴェルは当時難曲の代表とされていたM．バラキレフ作曲《イスラメイ》よりも難しいピアノ曲を書くと友人に告げていました。初演はビニェス自身の演奏でおこなわれ、批評家はこぞって彼の素晴らしいテクニックを称賛し、作品は好評を得ました。

しかし、この曲の解釈の差異（特に〈絞首台〉に関して）によってビニェスとの交友関係にひずみが生じ、ラヴェルが彼に初演の依頼をするのは本作が最後となってしまったのです。

ラヴェルの〝ピアノ・ソナタ〟？

ラヴェルは「ピアノ・ソナタ」と題された作品を遺していません。しかし《夜のガスパール》の構成を見てみると、〈オンディーヌ〉：（緩徐的な）ソナタ形式、〈絞首台〉：緩徐楽章、〈スカルボ〉：ロンド楽章という、実は伝統的なピアノ・ソナタの構成を意識して作られたことが分かります。

4年前の《ソナチネ》では絶対音楽的な形式美に重点を置いていましたが、それにベルトランの幻想的な世界を導入し自由で複雑な構成へと変貌させることで、ラヴェル流の「ピアノ・ソナタ」を模索したのです。画家レンブラントの陰影の表現をベルトランは詩で、ラヴェルは音楽で表現しました。特殊な技巧をも駆使し圧倒的な音の世界を構築した後、どの楽章も最後はふっと消えるように終わります。そこで我々はいま目の前で起こったことが「幻想」であったと気づくのです。

編曲によせて

近代ピアノ作品の金字塔ともいえる本作、ラヴェルは膨大な情報を超絶技巧を用いてピアノへと集約させましたが、10本の指から解き放たれた時どんな音楽が鳴り響くのか……管楽合奏の持つ音響上の「グロテスクさ」や「妖艶さ」に焦点を当てることでこれまであまり顧みられてこなかった吹奏楽の別ベクトルの表現を拡充しようという、この編成に対する挑戦として本編曲を手がけました。

〈オンディーヌ〉の繊細なパルス、〈絞首台〉で鳴り続ける鐘の音の推移、〈スカルボ〉での静と動の対比、そして全楽章で活躍するドラムセット……これらが本編曲を楽しむ手掛かりとなるでしょう。

おすすめの曲

《ディオニソスの祭り》（F．シュミット）：吹奏楽の古典的名曲。作曲時期（1913年）や曲想が本作と近しく、編曲に際し大いに参考にいたしました。

《マ・メール・ロワ》（M．ラヴェル）：知名度の高いこの作品、実は《夜のガスパール》とほぼ同時並行で作曲されました。幻想的な題材をもとにしながら両極端ともいえる作曲を行ったラヴェルの仕事ぶりに思いを馳せてみましょう。

訳詞

《夜のガスパール》アロイジウス・ベルトラン

庄野健（アロイジウス・ベルトラン著，庄野健訳．夜のガスパール．星隆堂書店，2019．212p．）

オンディーヌ

聞いて、聞いて
私よ、オンディーヌよ
やさしい月の光がさす窓を
月光に輝く飾り硝子を
夜露のようにそっとたたくのは私

私こそは
白絹のようなしぶきに身をつつみ
美しい星空を映した静かな湖を統べる
水の乙女

たち騒ぐ波は水の精
すべての流れは私の王宮への径（みち）
私の王宮は
火と土と風のはざま
湖底にかくされた秘密
聞いて、聞いて
私の父は榛（はん）の若木の枝で水を従えるのよ

夜のガス

姉さまたちは白い波で
水蓮やグラジオラスが咲きみだれる
緑の小島をやさしく包み
釣人のように枝を垂れた
柳じいさんをからかっているわ

そしてオンディーヌは指輪を差しだした
この私に彼女の夫となるべく
水の宮殿で湖の王となるべく

しかし私は
限りある命の乙女を
愛していることを告げた
オンディーヌは
恨みがましく涙を流したかと思うと
嘲笑を私に浴びせかけた
そして水のなかへと
帰っていった
オンディーヌのたてたしぶきが
青硝子に白い跡を残した

絞首台

これは夜陰に吹きすさぶ北風か
それとも、吊るされた罪びとの溜息か
あるいは、吊るし木の足元をやさしく覆う
苔と枯蔓に隠れてなくこおろぎか
死者の耳もとで
獲物を求めて飛びまわる蝿の羽音か
しゃれこうべにしがみついて
血のこびりついた髪に絡みつく甲虫か
それとも縊れた首のまわりに
純白のスカーフを編む蜘蛛か
かなたの城壁から鐘をうつ音が響き
罪びとの亡きがらは
夕日のなかで
ゆらりと揺れた

スカルボ

幾度となく私は見た、やつ、スカルボを
金の蜜蜂を縫いとった瀝青色の旗印の
銀色の紋章のように月が輝く夜に

幾度となく私は聞いた
壁の暗がりでやつが漏らすあざけりの声を
ベッドのカーテンに爪をたてる音を

私は見た
やつが天井からするすると降りてきては
魔女の糸巻きさながら
一本足でくるくると
部屋の中を踊りまわるのを

やつは何処へ失せたのか
突然、あやしい小鬼がゴチックの鐘楼のように
月と私のあいだに立ちふさがった
金色の鐘がやつのとんがり帽子で揺れている

しかし、すぐにそいつの身体は蒼白に変った
不気味なろうそくのように
頭は燃えつきたろうそくのように
溶けて流れた
そして冷たく動かなくなった

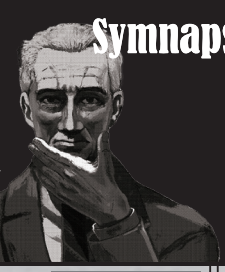
100 ㎡ (8×13 ×3.2) の打楽器常設のリハーサルスタジオ！
ティンパニ〜ハープ迄。吹奏楽・オーケストラ・ビッグバンド・合唱のリハーサルに！
ミニコンサート・Live に！　駐車場あり。

beatnik
SOCIAL MUSIC CLUB

Symnapse

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ

Sonate pour violon et piano



作曲：1923–27年
【初演】1927年5月30日、サル・エラール
ヴァイオリン：ジョルジュ・エネスコ、ピアノ：ラヴェル
出版：1927年
【献呈】エレーヌ・ジュルダン＝モランジュ

相容れない2つの楽器

ラヴェルによるヴァイオリンとピアノのための作品は4作品あり、比較的多く取り組んだ編成でありながら、当のラヴェルは「この二つはたがいに相容れない楽器である」とした上で、とくにこの作品においては「その対比の均衡をとるどころか、不両立性そのものを強調しているのである」（E.ジュルダン＝モランジュ著、安川加寿子・嘉乃海隆予訳『ラヴェルと私たち』）と述べており、その考えは性格も調も大きく異なる要素をそれぞれに同時に振り分ける、といった方法で音楽に反映されています。

この作品はヴァイオリニストでありラヴェルの親友であったH.ジュルダン＝モランジュに献呈されています。ラヴェルの《ヴァイオリンとチェロのためのソナタ》(1920–22)を初演した彼女はリューマチ性の疾患を抱えたことで本作品を初演できず、古くからの友人であったヴァイオリニストのG.エネスコとラヴェル自身のピアノにより初演が行われました。

後期ラヴェルの大実験

第1楽章〈アレグレット〉は自由なソナタ形式です。はじめにピアノが奏する美しい旋律が楽章全体を通して歌われ、その合間にいくつかのモチーフが浮き沈みします。極めて繊細な線によってかたち作られた楽章です。

第2楽章は〈ブルース〉という題名の通りジャズが取り入れられ（ジャズの要素は20年代以降に作曲されたラヴェル作品にしばしば聴かれます）、バンジョーのようにヴァイオリンが弦をかき鳴らし、それに対し複調の関係をもつ音をピアノが奏するところから始まります。ヴァイオリンにはグリッサンドが、ピアノには複数声部での動きが多用され、ヴァイオリンとピアノには収まりきらないくらいの豊かな楽章といっても良いかもしれません。

第3楽章は〈ペルペトゥウム・モビレ（無窮動）〉と題され、16分音符がひとたび現れると曲が終わるまで止まらないスリリングな楽章です。途中でこれまでの楽章の要素が配されることで楽曲全体をまとめつつ、怒涛のスピードで駆け抜けます。

ラヴェルの《ピアノ協奏曲ト長調》(1929-31)とこの作品は多くの共通する要素を持っています。「ジャズ」、「無窮動」、「ト長調」、「複調」など……本作でラヴェルが探求したいくつもの「実験」が、協奏曲でも大いに反映されているのではないでしょうか。

編曲によせて

第1楽章は複数の要素が同時に現れる部分が多いため、要素同士をはっきりと聴取できるようにソロを多用するなどの方法で吹奏楽の色彩豊かな楽器群を生かしました。

第2楽章ではヴァイオリンとピアノのデュオの中でラヴェルが実践したジャズ的な表現を、吹奏楽の編成に合わせて拡大しました。

第3楽章では曲を貫く16分音符の動きをヴァイオリンが受け持ち続けますが、そのときヴァイオリンのヴィルトゥオジティ（技巧性）を最大限生かすように音が置かれています。これらの音の並びはしばしば管楽器にはかなり無理があるので、吹奏楽・管楽器ならではの技巧を探究しました。

いずれの楽章においてもラヴェルが管弦楽編曲をするときの「姿勢」を模範とし、ラヴェルが管弦楽に対してそうしたように、それぞれの楽器に適した方法でプロフェッショナルな技術を求めています。

おすすめの曲

《ピアノ協奏曲ト長調》（M.ラヴェル）：先述の通り類似点がたくさんあります。

《世界の創造》（D.ミヨー）：クラシック音楽の作曲家がジャズを取り入れた最初期の作品です。



演奏会での演奏はたった一度きり——

その思い出を、録音で残しませんか？

ケーエムワークスでは、
ホール常設のマイクではなく音にこだわって選び抜いたマイクを持ち込み録音します。
スタジオやホール、リハーサル室、どんな場所でもレコーディングが可能です。

演奏会収録



コンクール オーディションの録音



レコーディングスタジオの録音



ケーエムワークス　検索　https://www.km-works.net

レコーディング＆ミキシング、マスタリング、楽譜制作まで対応可能な音楽プロダクション

K.M.works

050-1808-3923
info@km-works.net（担当：三國）

詳細
お問い合わせ

るドン・キホーテ



Don Quichotte à Dulcinée

作曲：1932–33年
【初演】（管弦楽と独唱）1934年12月1日
ポール・パレー指揮コロンヌ管弦楽団、
独唱：マルシャル・サンゲ
出版：1934年
【献呈】
空想的な歌：ロジェーヌ・クジネー
叙事詩風の歌：マルシャル・サンゲ
酒の歌：ロジェ・ブルダン

ラヴェル最後の作品

この作品はイギリスの映画会社からの依頼で書かれました（作詞はフランスの作家・外交官であったP．モラン（1888–1976）による）。ロシアのバス歌手F．I．シャリアピンを主役に据えた映画でしたが、ラヴェルは2ヶ月間の作曲期間を経て締め切りに間に合わせることができませんでした。映画にラヴェルの楽曲は使われず、代わりにJ．イベールが5つの歌と付随音楽を作曲しています。

初演は管弦楽版が先に行われ、若いフランスのバリトン歌手M．サンゲが独唱を務めました。ラヴェルはこの作品の作曲を進めている間にタクシー事故に遭ってしまい、体調を徐々に崩し、ついには作曲ができなくなってしまいました。しかし、そのような最期とは裏腹に、音楽はひたすら陽気に進んでいきます。

愛とロマンの大ぼら男、ドン・キホーテ

〈空想的な歌〉では8分の6拍子と4分の3拍子が交互に現れ、ドン・キホーテの大ぼらが豊かに表現されます。

〈叙事詩風の歌〉では、祈りと告白をゆったりとした音楽で歌い上げます。

〈酒の歌〉は快活な音楽で、酒に酔った男の様子が目に浮かぶようです。ラヴェルは、モランの詩に対してリフレインの最後の言葉を強調しています（掲載している訳はラヴェルが楽曲で用いた通りとなっています）。

《フランス歌曲の演奏と解釈》（P．ベルナック著、林田きみ子訳）によると、曲順に「グァヒラ（Guajira）」、「ソルシカ（Zorzica）」、「ホタ（Jota）」と、いずれも（ラヴェルのルーツである）スペインの舞踏に基づいています。また、和声進行も大枠は極めてシンプルであり、そこにラヴェル独特の色が加えられています。

編曲によせて

「ダンス」と「うた」の2つによって成立している作品で、これらの要素は吹奏楽にもぴったりです。

とくに「うた」に関しては、演奏者がより大らかに歌えるように、あるいは演奏者の歌をよりたくさん聴けるように振り分けています。

今回のプログラムの中で唯一ラヴェルが関わった管弦楽版が存在しますが、これは歌曲伴奏の形をとっているために管弦楽の表現が抑制されています。楽曲の持つ活力や色彩を最大限引き出すべく、今回は歌のパートも含めて吹奏楽編曲しています。

また、楽章ごとの性格の違いの強調を意識し、とくに〈酒の歌〉では装飾的な音を積極的に足しています。

おすすめの曲

〈3羽の美しい極楽鳥〉（《3つの歌》より／M．ラヴェル）：〈叙事詩風の歌〉とも共通する、美しく翳りのあるシンプルな旋律が印象的です。

〈エル・プエルト〉（《イベリア》第1巻より／I．アルベニス）：スペインの作曲家によるダンス・ミュージック。この作品を元にしたL．S．アラルコンによる吹奏楽作品《インヴォカシオン》も近年知られていますね！

ドゥルシネア姫に思いを寄せ

訳詞

《ドゥルシネア姫に思いを寄せるドン・キホーテ》ポール・モラン

丸山 愛子
(LMCD-1107, 巨匠の最期の歌曲 川村英司(BR) ウェルバ(P), コジマ録音, 1999年2月25日発売のブックレットより8–10p.)
https://www.ne.jp/asahi/bariton/eishi-kawamura/rokuon.html

シャンソン・ロマンチック

地球がこんなにぐるぐる回るのが
お気に障ったとおっしゃるなら
いそいでパンチョをさし向けまする
地球は止まり　黙りましょう

けばけばしく星の多い空から
倦怠(アンニュイ)があなたに降りかかるとおっしゃるなら
天の地籍台帳を引き裂いて
一撃で夜をはらいおとしましょう

そんなに空虚(からっぽ)な空間は
お気に召さぬとおっしゃるなら
神の騎士　槍を握った私が
過ぎゆく風に　星々を散らしましょう

それでも　あなたに捧げた私の血が
なおも私の所有(もの)とおっしゃるなら
高貴の奥方よ　お咎めのもとに私は色蒼ざめ
あなたをほめたたえつつ　死にまする

注：パンチョとはドン＝キホーテの従者サンチョ・パンサのこと。原詩では Pança 表記。

シャンソン・エピック

高貴な奥方をゆっくり拝し
そのお声を聞かせたまわる　善い聖ミカエルよ
彼の方の御機嫌をうかがい　お護りもうすため
私を選びたもうた善い聖ミカエルよ
善い聖ミカエルよ　おりたちたまえ
聖ジョルジュとならび立って
青衣のマドンナの祭壇の上に

天の光でまもりたまえ　私の剣(つるぎ)を
それにひとしく純潔で
それにひとしく敬虔な
貞潔無垢のお方　高貴な奥方を
おお偉大な聖ジョルジュと聖ミカエルよ
私の夜衛を見守る天使よ
青衣のマドンナ　あなたにいきうつしの
やさしい奥方をまもりたまえ！　アーメン

酔酒

くたばれ私生児(ろくでなし)め　おお輝かしい奥方よ
奴めはあなたのやさしい眼からおれを追いはらうた
おれは恋と古い葡萄酒がもとで
心も魂も喪中だ　などと云いやがる
ああ！　ああ！

おれは飲むんだ　喜びを！
喜びだけがめあてなのさ
おれは…飲みさえすりゃあ　そこへひとっとび
ああ！　ああ！　喜びへ！

くたばれ嫉み屋め　おおブリュネットの恋人よ
奴めは愚痴り　さめざめ泣いて
あおじろい彩男でいようと誓いをたてて
酔いが廻ると　水割りにしやがるんだ
ああ！　ああ！　ああ！

おれは飲むんだ　喜びを！
喜びだけがめあてなのさ
おれは…飲みさえすりゃあ　そこへひとっとび
ああ！　ああ！　喜びへ！

注：タイトル「酔酒」は曲目一覧では「酔歌」となっており、原題 Chanson à boire を鑑みても後者の方がより正確であると思われる。t

Symnapse メンバー

Arranger



編曲

姫野七弦

2000 年生まれ。神奈川県出身。
管打楽器を用いた作品を中心に、さまざまな媒体のための創作活動やそのアシスタントを行なっている。
吹奏楽やアンサンブルのための作品がネクサス音楽出版より出版されている。21 世紀の吹奏楽 第 26 回 “ 響宴 ” に選出。
これまでに作曲を大橋征人、井元透馬、鈴木純明、渡辺俊哉、川島素晴の各氏に師事。作曲の会「Shining」会員。
東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、現在国立音楽大学大学院音楽研究科作曲専攻作品創作コース在籍中。
https://sites.google.com/view/himeno-site/

Arranger



編曲

湯地晃太郎

1997 年生まれ。宮崎県出身。
5 歳よりピアノを、中学入学時よりホルンを始める。作曲は独学で、吹奏楽や室内楽編成を中心とした楽曲制作を行っている。
2019 年、音楽家集団「おとつくらぼ」に作曲家として参加。
2022 年、第 32 回 TIAA 全日本作曲コンクール室内楽部門 3 位入賞。同年、第 32 回朝日作曲賞 (吹奏楽) 最終選考選出。

Conductor



指揮

岡村雄之典

1999 年鎌倉市生まれ。
東京音楽大学附属高等学校、桐朋学園大学を経て 2020 年に渡仏、指揮と作曲を中心に研鑽を積む。
吹奏楽の分野においては特に 2017 年に自身が設立した Filos Wind Orchestra やそのメンバーとの活動も数多く、2019 年には L.S. アラルコン氏の交響曲を日本初演。
同年、第 2 回 WASBE 作曲コンテスト 3 位入賞、2022 年第 1 回古関裕而作曲コンクール入選。

Special Thanks （敬称略）　波立裕矢　岩尾美乃理　猪田董　鵜木叶和　岡田晴希　鎌田実桜　長澤莉佳　沼田歩未那　南朋佳　森みく　山縣由布夏　吉池穣　阿部達利　漆畑奈月

スタッフ　飯田匡　稲垣千佳　稲垣佳葉　菊池亮佑　中村陽太　矢野耕我

ロゴデザイン　真田将太朗

フライヤー・プログラムデザイン　栗原侑莉
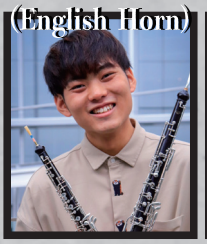


鎌倉有里



藤枝麻里花



村上小夏



田邉奏貴



平川眞鈴



野辺かれん



石田優果



栗山かなえ



小林颯樹



齋藤ちあき



林みのり



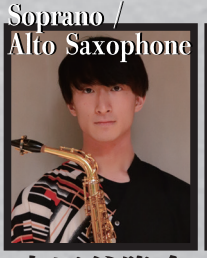
眞塩由希子



鈴木優菜



高野七菜実



吉田谷隆介



松尾悠生



谷真之介



今田俊輔



関根美羽



妹尾美雨



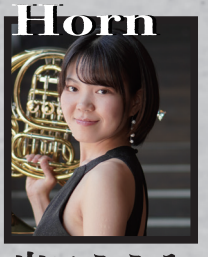
粂侑樹



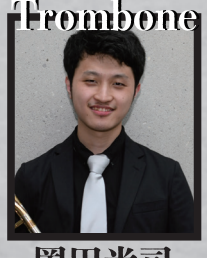
下原琉寧



堀内愛日



山口ここみ



岡田光司



栗谷川未花



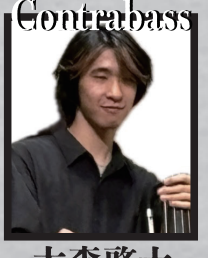
榛葉孝



杉田優希



山本蒼太



大森啓士



三河茉莉絵



山元風吾



鎌田雄吾



但馬馨



西村和



本間雄也

※ラヴェルがその生涯の中で完成させた作曲作品とその編曲作品、また他者によるそれらの吹奏楽編曲譜
（2025 年 1 月現在出版されていることが確認でき、国内出版社あるいは海外出版社を通じて比較的容易に入手可能であるもの）について掲載しております。

ラヴェル作品・編曲目録

作品名 (特記すべき編成) ／作曲年
ー作曲者自身による編曲／編曲年
　編曲者名／出版社／出版年／全曲 or 抜粋 (楽章抜粋の場合は〈楽章名〉) ／備考

舞台作品 (オペラ・バレエ)

スペインの時 (オペラ) ／ 1907-09

ダフニスとクロエ (バレエ) ／ 1909-12
ー管弦楽組曲：1)〈夜想曲〉〈間奏曲〉〈戦いの踊り〉／ 1911
ー管弦楽組曲：2)〈夜明け〉〈無言劇〉〈全員の踊り〉／ 1913
ーピアノ編曲：〈ダフニスの優しく軽やかな踊り〉〈夜想曲、前奏曲と戦いの踊り〉〈ダフニスとクロエの情景〉

- 石川學／ ZER ／ 2014 ／〈夜明け〉〈全員の踊り〉から抜粋
- 上埜孝／ WIS ／ 2015 ／第 2 組曲
- 小澤満宏／ MB ／ 2016 ／第 2 組曲
- 高昌帥／ TD ／ 2012 ／第 2 組曲
- 齋藤淳／ FO ／ 2022 ／第 2 組曲
- 佐藤博昭／ ME ／ 2019 ／〈夜明け〉〈全員の踊り〉／小編成、グレード 4.5
- 佐藤正人／ BRN ／ 1999 ／第 2 組曲
- 瀬浩明／ DC ／ー／〈序奏 - 宗教的な踊り〉〈夜想曲 -3 人のニンフの神秘的な踊り〉〈戦いの踊り〉
- 瀬浩明／ DC ／ー／第 2 組曲
- 高木登古／ TKG ／ 2016 ／第 2 組曲
- 高木登古／ TKG ／ 2016 ／〈若者たちの踊り〉
- 仲田守／ WG ／ 2005 ／第 2 組曲
- 林紀人／ SMG ／ー／第 2 組曲
- 藤田玄播／ WG ／ 1998 ／第 2 組曲
- 保科洋／ HO ／ 2024 ／第 2 組曲
- 真島俊夫／ CAF ／ 2002 ／第 2 組曲
- 淀彰／ WG ／ 1999 ／第 2 組曲
- Donald Patterson ／ USMB ／ 2015 ／第 2 組曲／ USMB ホームページにてスコア・パート譜ともに無料ダウンロード可
- Mark H. Hindsley ／ MH ／ 1988 ／第 2 組曲
- 高橋徹／ DH ／ 2011 ／第 2 組曲

子供と魔法 (オペラ) ／ 1920-25
　＊吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (檜貝道郎編、伊藤彬編など)

ボレロ (バレエ) ／ 1928

- 櫛田胅之扶／ WG ／ 2000 ／抜粋
- 小西龍也／ NEX ／ 2020 ／全曲
- 鈴木栄一／ TD ／ 2010 ／全曲
- 高橋宏樹／ ASK ／ 2015 ／抜粋／シュピール室内合奏団シリーズ、小編成 (8 名～)
- 藤田玄播／ WG ／ 1998 ／全曲
- 山里佐和子／ TAM ／ 2012 ／全曲
- Felix Hauswirth ／ MTM ／ 2018 ／全曲
- Frank Erickson ／ EV ／ー／抜粋
- Henk Ummels ／ MO ／ 2008 ／抜粋
- Henk van Lijnschooten ／ MO ／ 1991 ／全曲
- Jay Bocook ／ HL ／ー／抜粋
- Johnnie Vinson ／ HL ／ 2005 ／抜粋／グレード 2(Young Concert Band Edition)
- Marco Tamanini ／ BAT ／ 2011 ／全曲
- Philip Sparke ／ ANG ／ 2011 ／全曲
- Pieere Dupont ／ DUR ／ 2001 ／全曲
- 川島素晴／ HC ／ 2021 ／《強撚ボレロ》／現代音楽的再創作
- 小島里美／ ME ／ 2002 ／《フックト・オン・ボレロ》
- 岩井直溥／ IWI ／ー／《ボレロ》／ラテン音楽風
- 石毛里佳／ WIS ／ 2008 ／《ボレロっ !?》

管弦楽作品

《シェエラザード》序曲／ 1898
　＊吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (山澤洋之編、石原修編など)

スペイン狂詩曲／ 1907-08
　1) 夜への前奏曲、2) マラゲーニャ、3) ハバネラ、4) 祭り
ーピアノ連弾編曲

- 石川學／ ZER ／ 2014 ／〈マラゲーニャ〉〈祭り〉
- 石川學／ ZER ／ 2014 ／〈祭り〉
- 川口三郎／ SMG ／ー／〈マラゲーニャ〉〈祭り〉
- 佐藤博昭／ ME ／ 2018 ／〈祭り〉／小編成、グレード 4.5
- 瀬浩明／ DC ／ー／〈マラゲーニャ〉〈祭り〉
- 高木登古／ TKG ／ 2017 ／全曲
- 仲田守／ WG ／ 2009 ／全曲
- 服部浩行／ TD ／ 2012 ／〈祭り〉
- 藤田玄播／ WG ／ 2008 ／全曲
- 森田一浩／ BRN ／ 1999 ／全曲
- José Schyns ／ BAT ／ 2010 ／〈祭り〉

ラ・ヴァルス／ 1919-20
ーピアノ独奏編曲
ー4 手 2 台ピアノへの編曲

- 天野正道／ BRN ／ 1999 ／全曲
- 瀬浩明／ DC ／ー／全曲
- 高木登古／ TKG ／ 2008 ／抜粋
- 山本教生／ AK ／ 1999 ／全曲
- Donald Patterson ／ USMB ／ 2004 ／全曲／ USMB ホームページでスコア・パート譜ともに無料ダウンロード可
- Jos van de Braak ／ BAT ／ 2013 ／全曲

ファンファーレ～ 1 幕のバレエ《ジャンヌの扇》のための／ 1927
ーピアノ連弾への編曲

左手のための協奏曲（pft, orch）／ 1929-30

天野正道／ BRN ／ 2015 ／抜粋／ピアノなし (ピアノあり全曲版は未出版)

ピアノ協奏曲ト長調（pft, orch）／ 1929-31

1) アレグラメンテ、2) アダージョ・アッサイ、3) プレスト

Simon Scheiwiller ／ BAT ／ 2017 ／全曲／ピアノあり

独奏作品 (ピアノ独奏作品)

グロテスクなセレナード／ 1893

古風なメヌエット／ 1895

—管弦楽編曲／ 1929

瀬浩明／ DC ／ー／全曲

松本道弘／ TD ／ 2021 ／全曲／小編成

山本教生／ AK ／ 2016 ／全曲／小編成

ラ・バラード／ 1892-98?

姫野七弦／自費／ 2025 ／全曲／ Symnapse 第 3 回演奏会〜新・ラヴェル〜事件にて初演

亡き王女のためのパヴァーヌ／ 1899

—管弦楽編曲／ 1910

石川學／ ZER ／ 2014 ／全曲

瀬浩明／ DC ／ー／全曲

仲田守／ BRN ／ 2002 ／全曲

藤田玄播／ WG ／ 1999 ／全曲

前田卓／ TD ／ 2015 ／全曲／小編成

淀彰／ WG ／ 2003 ／全曲

Alfred Reed ／ LUD ／ 1988 ／全曲

Jerry Brubaker ／ AF ／ー／抜粋

Johan de Meij ／ AM ／ 2015 ／全曲／ Trb. ソロと吹奏楽

Johan de Meij ／ MO ／ 1991 ／全曲

木村牧麻／ LUD ／ー／全曲

Lawrence Fogelber ／ LUD ／ー／全曲

Mark H. Hindsley ／ MH ／ー／全曲

Michael Story ／ AF ／ 2015 ／抜粋／グレード 1(Belwin Beginning Band Series)、小編成

Pieere Dupont ／ MTM ／ー／全曲

R.W.Smith ／ AF ／ 1994 ／抜粋／グレード 2(Belwin Young Band Series)、小編成

Simon Scheiwiller ／ BAT ／ 2019 ／全曲／小編成

真島俊夫／ BRN ／ 2004 ／《パヴァーヌ (ボサ・ノヴァ)》

水の戯れ／ 1901

静間弘之／ MB ／ 2009 ／全曲

ソナチネ／ 1903-05

1) 中庸の速さで、2) メヌエットの速さで、3) いきいきと

＊吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (鳥居光編、檜貝道郎編、栂野孝行編など)

メヌエット 嬰ハ短調／ 1904

鏡／ 1904-05

1) 夜蛾、2) 悲しき鳥、3) 洋上の小舟、4) 道化師の朝の歌、5) 鐘の谷

—管弦楽編曲〈洋上の小舟〉／ 1906

—管弦楽編曲〈道化師の朝の歌〉／ 1918

石川學／ ZER ／ 2013 ／〈道化師の朝の歌〉

穐吉馨／ MB ／ 2010 ／〈道化師の朝の歌〉／小編成

一木一誠／ MB ／ 2023 ／〈道化師の朝の歌〉／フレキシブル編成 (13 名〜)

小野寺真／ BRN ／ 2017 ／〈道化師の朝の歌〉

瀬浩明／ DC ／ー／〈道化師の朝の歌〉

仲田守／ WG ／ 2009 ／〈道化師の朝の歌〉

藤田玄播／ WG ／ 1998 ／〈道化師の朝の歌〉

前田卓／ TD ／ 2017 ／〈道化師の朝の歌〉／小編成

渡部謙一／ NEX ／ 2020 ／〈道化師の朝の歌〉

Christiaan Janssen ／ BAT ／ 2014 ／〈道化師の朝の歌〉

＊〈鐘の谷〉も吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (D.Hunsberger 編、志村健一編、伊藤彬編など)

夜のガスパール／ 1908

1) オンディーヌ、2) 絞首台、3) スカルボ

天野正道／ BRN ／ 2001 ／〈スカルボ〉

湯地晃太郎／自費／ 2025 ／全曲／ Symnapse 第 3 回演奏会〜新・ラヴェル事件〜にて初演

ハイドンの名によるメヌエット／ 1909

Rob McWilliams ／ AF ／ 2014 ／全曲

高雅で感傷的なワルツ／ 1911

—管弦楽編曲／ 1912

—管弦楽編曲（バレエ《アデライード , または花言葉》）／ 1912

瀬浩明／ DC ／ー／詳細不明 (カタログ記載のみ)

松本道弘／ TD ／ 2021 ／全曲／小編成

前奏曲／ 1913

……風に／ 1913

1) ボロディン風に、2) シャブリエ風に

クープランの墓／ 1914-17

1) 前奏曲、2) フーガ、3) フォルラーヌ、4) リゴードン、5) メヌエット、6) トッカータ

—管弦楽編曲／ 1919

1) 前奏曲、2) フォルラーヌ、3) メヌエット、4) リゴードン

—管弦楽編曲 (バレエ)

〈フォルラーヌ〉〈メヌエット〉〈リゴードン〉

天野正道／BRN ／2002 ／〈前奏曲〉〈メヌエット〉〈トッカータ〉／大編成
小野寺真／BRN ／2016 ／〈前奏曲〉〈メヌエット〉〈リゴードン〉／小編成
山本教生／AK ／2008 ／〈メヌエット〉〈リゴードン〉／中編成

二重奏作品（ピアノ連弾作品を含む）

耳で聴く風景 (2 台 4 手 pft) ／ 1895-97
1) ハバネラ、2) 鐘が鳴る中で
Nick Di Scala ／自費／ 2012 ／全曲

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ (vln, pft) ／ 1897

マ・メール・ロワ (1 台 4 手 pft) ／ 1908-10
1) 眠りの森の美女のパヴァーヌ、2) おやゆび小僧
3) パゴダの女王レドロネット、4) 美女と野獣の対話、5) 妖精の園
―管弦楽編曲／ 1911
―管弦楽編曲 (バレエ) ／ 1911
前奏曲、第 1 場〈紡ぎ車の踊りと情景〉、第 2 場〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉、
第 3 場〈美女と野獣の対話〉、第 4 場〈おやゆび小僧〉、
第 5 場〈パゴダの女王レドロネット〉、フィナーレ〈妖精の園〉
天野正道／ ATM ／ 2004 ／《「マ・メール　ロァ」バレェセレクション》(バレエ版から抜粋)
石川學／ ZER ／ 2006 ／〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉〈パゴダの女王レドロネット〉〈妖精の園〉／小編成
小野寺真／ BRN ／ 2015 ／〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉〈間奏曲〉〈パゴダの女王レドロネット〉〈間奏曲〉〈妖精の園〉
鈴木英史／ FO ／ 2010 ／〈パゴダの女王レドロネット〉〈妖精の園〉
瀬浩明／ DC ／ー／抜粋／カタログ記載のみ
高木登古／ TKG ／ 2011 ／〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉〈パゴダの女王レドロネット〉〈妖精の園〉／小編成
保科洋／ HO ／ 2019
前田卓／ TD ／ 2016 ／ピアノ連弾版全曲／小編成
森田一浩／ BRN ／ 2002 ／ピアノ連弾版全曲／小編成
山本教生／ AK ／ 1998 ／バレエ版全曲／小編成
淀彰／ WG ／ 1999 ／〈眠りの森の美女のパヴァーヌ〉〈パゴダの女王レドロネット〉〈間奏曲〉〈妖精の園〉
Brian Beck ／ AF ／ 2013 ／〈パゴダの女王レドロネット〉
Erik Somers ／ BAT ／ 2010 ／ピアノ連弾版全曲／小編成
James Thornton ／ TRN ／ー／〈妖精の園〉
Jeffrey E. Turner ／ AF ／ 2010 ／ピアノ連弾版から抜粋・メドレー／小編成
Richard Frey ／ BH ／ 2018 ／ピアノ連弾版全曲／小編成
Robert Cray ／ DUR ／ー

口絵 (2 台 5 手 pft) ／ 1918

ヴァイオリンとチェロのためのソナタ (vln, vlc) ／ 1920-22
1) アレグロ、2) 非常に生き生きと、3) ゆっくりと、4) 生き生きと , 活気をもって
＊吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (T. ホフマン編)

ガブリエル・フォーレの名による子守歌 (vln, pft) ／ 1922

ツィガーヌ：演奏会用ラプソディ (vln, pft) ／ 1924
―管弦楽伴奏版／ 1924

ヴァイオリンとピアノのためのソナタ (vln, pft) ／ 1923-27
1) アレグレット、2) ブルース、3) ペルペトゥウム・モビレ (無窮動)
姫野七弦／自費／ 2025 ／ Symnapse 第 3 回演奏会〜新・ラヴェル事件〜にて初演

室内楽作品（演奏者 3 名以上）

弦楽四重奏曲 (str.quartet) ／ 1902-03
1) 非常におだやかに、2) 十分生き生きと―非常にリズミカルに、3) 非常に遅く、4) 生き生きと , 激しく
＊吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (檜貝道郎編、今野貴文編、T. ホフマン編など)

序奏とアレグロ (str.quartet, fl, cl, hrp) ／ 1905
―2 台ピアノへの編曲
＊吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (小野寺真編など)

ピアノ三重奏曲（vln, vlc, pft）／ 1914
1) 中庸に、2) パントゥム、3) パッサカイユ、4) 終曲
高木登古／ TKG ／ 2011 ／〈パントゥム〉〈終曲〉
山本教生／ AK ／ 2015 ／〈パントゥム〉〈終曲〉

声楽曲（独唱作品）

特記のない限り編成は vo, pft

愛に死せる女王のバラード／ 1893 頃

暗く果てない眠り／ 1895

空は屋根の向こう／ 1894-95

聖女／ 1896

紡ぎ車の歌／ 1898

なんと打ち沈んだ！／ 1898

クレマン・ラロの墓碑銘／ 1896-99
A) 私に雪を投げたアンヌの、B) スピネットを弾くアンヌの

花のマント／ 1903
―管弦楽伴奏版

シェエラザード／ 1903
1) アジア、2) 魔法の笛、3) つれない人
―管弦楽伴奏版／ 1903

5 つのギリシア民謡／ 1904-06
1) 花嫁の歌、2) 向こうの教会へ、3) 私にくらべられる色男はだれ、4) ピスタチオを摘む女の歌、5) なんと楽しい！

おもちゃのクリスマス／ 1905

博物誌／ 1906
1) くじゃく、2) こおろぎ、3) 白鳥、4) かわせみ、5) ほろほろ鳥
湯地晃太郎／自費／ 2025 ／全曲／ Symnapse 第 3 回演奏会～新・ラヴェル事件～にて初演、小編成

ハバネラ形式のヴォカリーズ・エチュード／ 1907
David Marlatt ／ ENP ／ 2008 ／全曲／ソロと吹奏楽

大風は海から／ 1907

草の上で／ 1907

トリバトス／ 1907

民謡集／ 1910
1) スペインの歌、2) フランスの歌、3) イタリアの歌、4) ヘブライの歌、5) スコットランドの歌
―管弦楽伴奏版／ 1923-24

ステファヌ・マラルメの 3 つの詩 (vo, picc, fl, cl, b.cl, str.quartet, pft) ／ 1913
1) ため息、2) むなしい願い、3) 壺の腹から一飛びに躍り出た

2 つのヘブライの歌／ 1914
1) カディッシュ、2) 永遠の謎
―管弦楽伴奏版／ 1919

ロンサールここに眠る／ 1923-24
―管弦楽伴奏版／ 1934

マダガスカル先住民の歌 (vo, fl, vlc, pft) ／ 1925-26
1) ナアンドーヴ、2) おーい！、3) ……は快い
―ピアノ伴奏版／ 1926

夢／ 1927

ドゥルシネア姫に思いを寄せるドン・キホーテ／ 1932-33
1) 空想的な歌、2) 叙事詩風の歌、3) 酒の歌
―管弦楽伴奏版／ 1932-33
姫野七弦／自費／ 2025 ／全曲／ Symnapse 第 3 回演奏会～新・ラヴェル事件～にて初演

声楽曲 (合唱作品)

コルシカの歌（cho, ensemble）／ 1895
1) サンピエロの讃歌、2) ボニファシアの風刺歌、3) 政治的な歌、4) パルネカの子守歌、5) クシオンの子守歌、6) セラのセレナーデ、7) オリーブの収穫、8) 漁師たちの歌、9) ドゥレッツァの哀歌、10) ビグーリャの哀歌、11) サルテネの弔歌、12) ニオロの弔歌

無伴奏混声合唱のための 3 つの歌／ 1914-15
1) ニコレット、2) 3 羽の美しい極楽鳥、3) ロンド
＊吹奏楽コンクールでの演奏歴あり (福田洋介編、市村志織編など)

ローマ賞提出作品

1900 年
1) フーガ ニ長調
2) 合唱曲《舞姫たち》～ソプラノ独唱・混声合唱と管弦楽のための

1901 年
1) フーガ ヘ長調
2) 合唱曲《心安まる光景》～ソプラノ独唱・混声合唱と管弦楽のための
3)《ミルラ》～ 3 人の独唱者と管弦楽のためのカンタータ

1902 年
1) フーガ変ロ長調
2) 合唱曲《夜》～ソプラノ独唱・混声合唱と管弦楽のための
3)《アルシオーヌ》～ 3 人の独唱者と管弦楽のためのカンタータ

1903 年
1) フーガ ホ短調
2) 合唱曲《プロヴァンスの朝》～ソプラノ独唱・混声合唱と管弦楽のための
3)《アリッサ》～ 3 人の独唱者と管弦楽のためのカンタータ

1905 年
1) フーガ ハ長調
2) 合唱曲《夜明け》～テノール独唱・混声合唱と管弦楽のための

【出版社略号一覧】
＊札幌地区吹奏楽連盟「出版社　略式記号一覧」を参照。カッコ内の略号は Symnapse にて定めたもの
AGLAS 浅木森友彦 (Trans Asia Music)：TAM、ASKS Winds：(ASK)、(株) アトリエ・エム：ATM、イワイミュージックサービス：(IWI)、(有) ウインドギャラリー：WG、(株) ウィンズスコア：WIS、(有) 学伸 (アコード出版)：AK、楽譜出版社 ミュージック・ベルズ：(MB)、(株) CAFUA レコード：CAF、(株) 佼成出版社：KPC、(株) すみやグッディ：(SMG)、ゼーレ弦楽器工房：(ZER)、高木登古：TKG、(有) ティーダ：TD、(株) 東京ハッスルコピー：HC、(株) ドルチェ楽器：(DC)、(株) 日本パルス：(PLM)、(株) ネクサス音楽出版：NEX、(株) ブレーン：BRN、(株) フォスターミュージック：FO、Hoshina music office：HO、(株) ミュージックエイト：ME、Alfred Publishing：AF、Amstel Music：AM、Anglo music：ANG、Baton Music：BAT、Edition Durand：DUR、Elkan-Vogel Inc.：EV、Eighth Note Publications：ENP、Boosey & Hawkes：BH、De Haske：DH、Hafabra Music：HFB、Hal Leonard：HL、Hindsley transcriptions：MH、Ludwig masters：LUD、Martin Musique：MTM、Molenaar Edition：MO、TRN Music：TRN、U.S.Marine Band：(USMB)
＊作品名・作曲年に関しては　井上さつき　2019 『ラヴェル』：18-32　東京：音楽之友社　に準拠

次回予告

Symnapse 第4回演奏会

日時　2025年10月（予定）

場所　（未定）

概要　金管アンサンブルのための新作等

Symnapse は YouTube チャンネルも面白い!?

Symnapse では YouTube にこれまでの演奏会のアーカイブ動画を公開しているほか、吹奏楽コンクール課題曲を中心とした楽曲解説動画を公開しております。吹奏楽を「楽譜」から読み解いていく面白さ・楽しさを共有すべく活動を続けておりますので、ぜひチャンネル登録して動画をチェックしてみてください！

YouTube チャンネルはこちら！→

日本の吹奏楽におけるラヴェル編曲受容史

日本の吹奏楽界でも非常に人気な作曲家、ラヴェル。そんなラヴェルが吹奏楽を指揮した経験があることをご存じでしょうか？　実は吹奏楽作品を書く予定まであったのです！　そんなラヴェルと吹奏楽との接点の話から、日本の吹奏楽コンクールでどのようにラヴェルが受容され演奏されてきたのか、現在どのような編曲が流通しているのかに至るまで、あらゆるラヴェルと吹奏楽との関係を語り尽くす動画ができました。ぜひリンクからご覧ください！

動画のリンクはこちら！→

ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京

Dolce Wind Instruments Avenue Tokyo



Flutes Salon & Powell Flutes Japan

フルートサロン＆パウエル・フルート・ジャパン

パウエル・フルート・ジャパンとワールド・フルート・サロンから構成された広々としたゴージャスなサロン。



Brass Instruments Salon

金管楽器サロン

トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバのオリジナルブランドをはじめとしたトップブランドを一堂に。



Wood Wind Instruments Salon

木管楽器サロン

ラグジュアリーで落ち着いた空間。クラリネット、オーボエ、ファゴットの一流ブランドをコレクション。



Saxophones Salon

サクソフォーンサロン

クラシカルな雰囲気とモダンなテイストを融合させたスペース。サックス奏者の多彩なミュージックライフをサポート。

Dolce Tokyo Music Academy

ドルチェ東京・ミュージック・アカデミー

管楽器の一流演奏家による、一流のレッスンが気楽にお受けいただけます。便利なロケーションでライフスタイルにあった管楽器の個人レッスン。



Powell Flutes Japan Artists Salon"Dolce"

100名キャパシティの瀟洒なサロン。スタインウェイピアノ、録音録画機材など備えています。



dolce

株式会社ドルチェ楽器

ドルチェ楽器 管楽器アヴェニュー東京

〒160-0023

東京都新宿区西新宿1-13-12 西新宿昭和ビル8F

TEL.03-5909-1771　FAX.03-3345-1388

tokyo@dolce.co.jp

11:00am～7:00pm　木曜定休(祝日は営業)

www.dolce.co.jp